

---

## 3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

koru.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

### 【Nコード】

N3133W

### 【作者名】

koru.

### 【あらすじ】

私は眠るのが怖い……。

それは、眠ってしまうと異世界に行って\*\*になってしまうから。

私は眠るのが怖い。

だって、眠ってしまったら私はあの世界で……。

酒瓶になってしまうんだもの！！！！！！  
いやああああ！！！！

\*\*\*\*\*

ほら…今日も、私の中にお酒が満たされてる…。

ちゃん　　。

水音が私の中で跳ねる。

今日のは中々にアルコール度の高いお酒だわ。

その割りに口当たりがまろやかで…かなり高級なお酒ね。

私を満たすお酒を味見して、ほんのり気持ちよくなる。

瓶なのに味がわかるのが可笑しいなんて思わないわよ？

そんなの可笑しいなんて思ってたなら、私が瓶になった事自体の説

明をどうつけねばいいっていうのよ。

「いつまで待てば良い？」

低い声がしたので意識を上に向ければ、嫌になるほどの存在感を持つ男が居る。

なんたら国の王様で、酒瓶わたしの所有者。

がっしりとした体躯に見合う大酒呑み。

ウバミのわりには平日はがぶ飲みはせずに、美味しい酒をじっくり味わって呑むのが好きらしい。

「まだか？」

我慢できないみたいに、その指先が酒瓶わたしの縁に触れ、広く開いている瓶の口部分をゆっくりと撫でる。

ぞわぞわとするその感触に慄きながら、NOを示す。

「駄目」

性別の判らない（いや、瓶に性別なんてないんだろうけど）くぐもった音が、声のように瓶に響く。

「くつくつく」。余を制止できるのは、お前ぐらいなものだ」

楽しそうな王様の声。

そして、指は瓶の表を包み込むように撫でる。

変な声が出そうになるのを堪える。

「震えておるぞ？ 酒瓶のくせに酒に酔ったのか？」

愉快そうに言われて、かつと頬が熱くなる。

あくまでイメージ、実際には酒瓶なので変わらないんだけどね。

それにしても……

無駄なイケメンおやじめっ！

無駄な美筋肉つけてっ！

無駄ムダな色気を駄々漏れさせるなっ！

あーもうっ！  
酒瓶形こんなりでなけりや、お手合わせをお願いするのにな

っ！！（いや、大口叩いてしまいましたゴメンナサイ）

いいんだ、いいんだ、  
酒瓶は大人しく酒を熟成させてればさー。  
わたし

不味い酒もそれなりに、美味しい酒ならより美味しくする魔法の酒瓶とは私のことよ！ ふははははっ！

•

•

•

•  
•  
o  
r  
z

あーあ、早く朝にならないかしら、そうしたらしょっぱい1Lのアパート  
我が家のせんべい布団に転がる現実に戻れるのに。

しよっぱい現実だとしても、身動きが取れるだけやっぱい現実のほうがいい。

そ、それにしても、さっきからずっと瓶をくすぐるように撫でるのをやめて欲しいです！

身を擦りたくても瓶なので出来ず。

それでも小刻みに体が震えて、瓶わかしの中のお酒に小波さざなみがたつ。

「心地よいか？ ん？」

なんですかそのエロボイス！

「どれ、味見でも……」

瓶わかしを持ち上げ、ぺろりと瓶わかしの口についた雫を舐め取る。

「ひゃあああつー!!」

ピシャンと瓶わかしの中のお酒が跳ねて、王様の口元に跳んだ。  
その雫を王様の赤い舌が舐め取る。

「　　良い味だ。　このまま、お前の最後の一滴まで飲み干そう  
か」

やああつ！ コップを！ コップを使ってください！！

わたしの胸中の懇願など何処吹く風で、王様の少し酷薄わかしそうな薄  
い唇が瓶わかしに近づいてくる。

「本気ですか……」

悲鳴のような囁きのような音が酒瓶わかしの中で反響するが、王様の行  
動を止めることはできなかった。

ひあああああつ！　ちよつと待ってええええ！　直飲じかみは駄目え  
えつ！

\*\*\*\*\*

「　　つつ、今日も夢見が最悪だ……」

『本気ですかー！！』と叫びながらの起床でした。  
寝覚め最悪。

ベッドに身を起こしたまま、目を閉じて頂垂れる。  
ああ、胸がまだバクバクいつてる。  
胸に手をやり深呼吸……、ん？

目を開けてパジャマを確認。  
あれ？　着ていたはずのパジャマが…無い？  
寝ぼけて脱いだのかしら。

顔を上げて、周囲を見まわ……………。

「やっと目覚めたか、魔法の酒瓶よ」

お、お、おおおさまああ！？

わたしの横には、上半身裸（下半身はシーツの中だ！　きつとパンツは履いてる！　うん！）の王様が、朝っぱらからいかがわしいエロ気を撒き散らしていた。（色気の上をいく何か）  
驚いて硬直しているわたしの腕が引かれ、一瞬にしてベッドに押し倒される。

ええ、それは見事な押し倒しでした。

「目覚めるのを待っていたぞ。　これでやっと、お前の美酒が味わえる」

にやり、と笑む王様の美顔が迫ってきて

。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3133w/>

---

3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

2011年9月2日19時13分発行